

日本洋書協会会報

Vol. 33 No. 4 (通巻383号) 1999年4月

理事会報告

3月26日(月)

1. 1999年度予算・総務委員会案を審議し、承認した。
理事会案として総会に上程する。
2. 総会準備について事務局長報告を了承した。
 - ・選挙管理委員委嘱：4月8日
 - ・決算報告書作成：4月9日総務委員会
 - ・会計監査：4月14日
 - ・総会開催通知：4月20日前後
3. 複写権センター申入書に関する金原理事の経過報告を了承した。
4. 入会呼びかけのパンフレットを作成することとし、齋藤理事の案文を大筋で了承した。
5. (株)小野包装の賛助会員入会を承認した。(4月1日付)
6. 名称変更関連事項につき事務局長報告を了承した。
7. (株)有隣堂の退会届を受理、承認した。(3月31日付)

海外ニュース

ABA (American Booksellers Association) は、独立系書店のための電子取引 (e-commerce) 用ホームページを、今年8月に開設する予定であると発表した。サイトの名称は *BookSense.com* となる予定で、現在 ABA の通信業務担当重役である Mr. Len Vlahos がサービスを統括する。このサイト開発のために、ABA は

約200万ドルを投資しており、インターネット・ショッピング及び流通サービスとともに、160万タイトルにのぼる Muze データベースからの書誌情報を提供する。各書店が、ABA の提供するいくつかのテンプレートのひとつを利用して独自のホームページをフロント・ページとしてデザインすることも可能である。

ABA の流通面でのパートナーは BAKER & TAYLOR であるが、注文された書籍が BAKER & TAYLOR の倉庫に在庫されていなかった場合には、別の業者へ注文が流れることになっている。ABA としては、顧客の注文はそれぞれの地域の書店に流れることを望んでおり、顧客が直接 *BookSense.com* にアクセスしてきた場合には該当地域の書店を紹介することにしている。

ABA の設定料金は、新規導入時セットアップに約500ドル、その後は毎月175ドルから400ドルというものである。サイトには各賞受賞作品や *BookSense* でのベストセラーリストなども含まれる予定で、これに利用各書店独自の情報を付け加えることも可能である。広告掲載については未定だが、有料広告になることは明らかのことである。

ABA はサイト運営のため出版社からの寄付を募っており、BookExpo America の場でキャンペーンを展開する予定。RANDOM HOUSE が既に寄付を承諾しているが、金額は明らかにされていない。

PUBLISHERS WEEKLY/March 22, 1999

目次

理事会報告・海外ニュース	1	うちの会社ほか	4	character とキャラクタ	6・7
1998年洋書輸入統計(後編)	2~4	出版文化史逍遙	5	広告	8

1998年（平成10年）1月～12月の洋書輸入統計（後編）

会報委員 荒木 亮一

4. その他の国からの輸入通関統計

主要6カ国（前編に掲載）以外で、1997年1月～12月に書籍および新聞・雑誌が1,000万円以上輸入された22カ国の1998年への推移と、主要6カ国を含めた28カ国の総合順位（お断り：合計額、パーセンテージ等で、1乃至2、数値が異なる場合がありますが、小数点以下が計算されているためです。）

（表4） （単位 百万円）

国名	1998年1～12月			1997年 実績	前年比	1998年 総合順位	1997年 総合順位
	書籍	新聞・雑誌	計				
韓国	372	169	540	362	149%	12	13
北朝鮮	26	0	26	26	100%	24	25
中国	1,473	181	1,654	1,036	160%	8	9
台湾	190	4	194	254	76%	13	14
香港	2,010	342	2,352	2,788	84%	5	6
タイ	111	62	174	124	140%	16	18
シンガポール	2,190	126	2,315	3,414	68%	6	5
マレーシア	70	0	70	64	109%	21	22
フィリピン	6	1	7	16	45%	27	26
インド	31	3	34	29	118%	23	24
スウェーデン	9	1	9	16	57%	26	27
デンマーク	21	164	185	164	113%	14	17
アイルランド	18	1	19	195	10%	25	15
ベルギー	107	4	111	124	90%	17	19
スペイン	157	26	183	186	98%	15	16
イタリア	427	514	941	842	112%	9	10
ロシア	78	0	79	62	127%	20	23
オーストリア	22	76	98	89	110%	19	20
カナダ	39	19	58	70	83%	22	21
ブラジル	50	578	628	584	108%	11	11
オーストラリア	89	21	110	530	21%	18	12
グアム	0	5	5	14	39%	28	28
小計	7,495	2,298	9,793	10,989	89%	—	—
その他の国	143	19	162	60	270%	—	—

注：統計の数字は、（前編）と同様に書籍、新聞・雑誌および幼児用絵本を含む。

<分析>

今回は、1997年との比較で1998年の輸入額を示した。これを見ると、韓国と中国からの合計輸入額がそれぞれ49%、60%と大きく伸びている。書籍と雑誌の個別の伸び率は、韓国が61%、29%、中国がこれも61%、47%と

なっている。これらの伸び率が、日韓、日中関係の発展に比例していれば喜ばしいことである。

米英2カ国からの輸入合計額の占める割合は64%で、1997年の61%を3%上回った。

また、1998年の書籍と新聞・雑誌および幼児用絵本の輸入合計額で、ニュージーランドが9百万円、イスラエルとペルーがそれぞれ8百万円と伸びを示し、エクワドールより幼児用絵本が8百万円輸入され、フィリピン、グアムを抜いた。

5. 為替相場の動向

直近3年間の主要6ヶ国の通貨の推移

（表5）

通貨	1996 年間平均 為替相場	1997 年間平均 為替相場	1998 年間平均 為替相場	前年比	洋書輸入 構成比	98年間 加重平均
US\$	¥109.86	¥121.99	¥130.93	-7.33%	37%	-2.74%
Stg.£	¥174.11	¥202.27	¥216.92	-7.24%	27%	-1.91%
D.M.	¥73.05	¥70.51	¥74.39	-5.50%	7%	-0.37%
F.Fr.	¥21.69	¥21.14	¥22.19	-4.97%	2%	-0.11%
D.Gld.	¥65.17	¥62.63	¥66.01	-5.40%	7%	-0.38%
S.Fr.	¥89.06	¥84.34	¥90.26	-7.02%	1%	-0.10%
小計					82%	-5.64%
その他の国	—	¥66.23	¥67.80	-2.37%	18%	-0.43%
総計					100%	-6.07%

注：（-）は円安。平均レートは銀行によって若干の差異があると思われる。

<分析>

1998年の平均為替相場は、第2、第3四半期に円安が進んだため、表が示すとおり平均値で全面安となった。年末12月の平均値のみを見ると、1998年は前年（1997年12月）比（+）6.8%の円高で、1998年の4月～9月の大幅円安が伺える。

1998年中の為替相場の変動が、洋書の適正価格設定に与えたマイナス・インパクトも殊の外強かった、と考えられる。

注：「前年比」および「加重平均」のパーセンテージは、前年どおりの計算式によって算出してあるが、小数

点以下の数字も計算して求めた数値である。

1991年～1998年の為替相場と輸入額の相関的な推移、および実質成長率一覧

(表6)

区分	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
書籍・新聞・雑誌輸入額前年比	% 82.70	% 110.70	% 87.10	% 99.80	% 105.00	% 117.40	% 109.00	% 101.00
各国為替相加重平均値の前年比	% 7.60	% 4.60	% 17.00	% 6.60	% 3.40	% -14.10	% -8.00	% -6.07
円高・円安調整後の実質成長率	% -9.70	% 15.30	% 4.10	% 6.40	% 8.40	% 3.30	% 1.00	% -5.07

注：為替相場、成長率の+）は円高又はプラス成長、-）は円安又は減少。

<分析>

1991年～1998年輸入額による期間成長率は31.6%、為替相場を加味した調整後の期間実質成長率もプラスを示している。厳しい状況が続いているとは言え、数字的にはまずまずと言えるのではないだろうか。

6. その他の洋書関連商品（幼児用の絵本、地図・海図等、マイクロフィルム、CD-ROM）

(表7) (単位 百万円)

品目	1997 輸入価格	1998 輸入価格	前年比	1989 輸入価格	最近10年間 の伸び率
幼児用の絵本及び習画本	2,919	2,183	75%	979	223%
楽譜	854	818	96%	728	112%
地図・海図					
地球儀・天体儀	162	112	69%	187	60%
製本したものの	105	177	169%	83	213%
その他のもの	311	416	134%	249	167%
小計	578	705	122%	519	136%
葉書	1,522	1,276	84%	521	245%
カレンダー					
紙製又は板紙製	2,406	1,944	81%	1,057	184%
その他のもの	116	146	126%	70	209%
小計	2,522	2,090	83%	1,127	185%
その他の印刷物					
広告・商業用カタログなど	5,897	5,406	92%	2,949	183%
写真	1,722	1,238	72%	1,508	82%
絵画・デザインなど	4,262	3,077	72%	5,126	60%
その他のもの	38,022	34,048	90%	10,410	327%
小計	49,903	43,769	88%	19,993	219%

(関税上の注記は次の通り)

(1) 幼児用の絵本及び習画本（品目番号49.03）

(2) 楽譜（品目番号49.04）

(注) 印刷したものと及び手書きのものに限るものとし、製本してあるかないか又は挿絵を有するか有しないかを問わない。

(3) 地図、海図その他これらに類する図

(品目番号49.05)

(注) 製本したものの、壁掛け用のもの、地図及び地球儀、天球儀その他これらに類するものを含むものとし、印刷したのものに限る。

(4) 葉書及び個人のあいさつ、伝言又は通知を印刷したカード（品目番号49.09）

(注) 葉書：印刷したものと及び挿絵を有するものに限る。カード：挿絵を有するか有しないか又は封筒若しくはトリミング付きであるかないかを問わない。

(5) カレンダー（品目番号49.10）

(注) カレンダーブロックを含むものとし、印刷したのものに限る。

(6) その他の印刷物（品目番号49.11）

(注) 印刷した絵画及び写真を含む。(広告、商業用カタログ、絵画、デザイン及び写真その他これらに類する物品)

コメント：幼児用絵本が前年比で減少したことを除けば、最近10年の間に幼児用絵本、製本した地図・海図およびその他のもの、また、葉書、カレンダー共にほぼ倍増と順調な伸びを示している。その他の印刷物の中で、類別される広告、商業用カタログ、写真、絵画、デザイン以外の印刷物は300億円超で、そこに含まれるものに興味をそそられる。

(表8) (単位 百万円)

品名	1990	1994	1995	1996	1997	1998	前年比	90:98
マイクロフィルム	780	524	527	614	551	528	96%	68%

(7) マイクロフィルム（品目番号3705.20）

(注) 品目番号37.05、写真用のプレート及びフィルム（露光し、かつ、現像したものに限るものとし、映画用フィルムを除く。）のなかで類別されている。

<分析>

1990年頃をピークとして、横這い状態のようである。情報量増加に対応する方法としては、その整理と検索の

便利さから CD-ROM にその座を明け渡したと思われる。

(表 9) (単位 百万円)

品名	1996	1997	1998	前年比	伸び率
CD-ROM	20,355	31,700	27,565	87%	106%

(8) レーザー読出しシステム用のディスク：音声及び映像以外の記録の再生用のもの（品目番号8524.31）

(注) 品目番号85.24、レコード、テープその他の記

録用の媒体、の中に類別されている。

＜分析＞ 新しい情報、教育、学習用としての利用度が高く、書籍輸入量に迫るマーケットになっているが、1998年は前年比で87%と減少している。版元の新製品開発が一段落の時期に入ったとも考えられるが、一方、オンライン化による情報の共同利用による経費節減もその原因の一つではないだろうか。

(次号へ続く)

うちの会社

株式会社トーハン

私どもトーハンは当協会のメンバーの中であって、他の会員社の方とはかなり異なる立場にあると思います。弊社は輸入業務を行っておりませんので、洋書輸入協会の名には元々肩身の狭い思いをしておりましたところ、この度名称が日本洋書協会に変更になり、ほっとしているところです。

弊社は和書の取次会社として、全国の1万軒を越える書店様と取引しており、洋書の販売もこのルートを通じて行っております。この流通ルートの中には当協会でも重要な位置を占めておられるような洋書の専門知識を豊富にお持ちの書店様もおられますが、大半のお店はそうではありません。従って、弊社における洋書業務はひとことで言えば洋書業界と和書業界のインタ

ーフェイス業務です。和書の販売ルートを有効に活用して洋書を流通させるために、店頭セット作成等による受注簡素化、販売マニュアル作りによる洋書知識の普及、物流の標準化などに力を注いでおります。

主な商材は、店頭販売では、絵本・ビジュアル書・ペーパーバック・ELT・辞書などです。また学校採用品では、ELTのコース・ブックが中心です。

和書と同じ出版流通システムに洋書を乗せるために、お取引頂いている輸入会社の皆様にはご苦勞をおかけしております。洋書販売の一端を担っていただけるのも、皆様に教えられ、支えられてのことで、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

海外営業課長 志賀 国隆

新会員を紹介します

会員社名：(株)小野包装

東京都足立区綾瀬 2-31-7

代表者：代表取締役 小野壽勇氏

主要事業：出版印刷物に関する国内外の物流事業

入会日：1999年4月1日

会員資格：賛助会員

よろしく申し上げます。

JAIP DIRECTORY 1999

— 5月上旬出来 —

(日本洋書協会ダイレクトリー 1999年版)

会員価格 2,500円 (送料共)

一般価格 4,500円 (")

海外価格 8,000円 (航空便送料共)

装いを新たに、より実用的になりました。関連のお取引先にもお勧めください。

ダイレクトリー委員会

明治初期の目録に見る洋書〔7〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆明治9年洋書リストに見る輸入の状況(7)

【フォーセット夫人の経済書と日本近代化への寄与】

丸善明治9年洋書目録には“Millicent F. Fawcett”(1847—1929)の著作が1点と“Henry Fawcett”(1833—84)が5点リストされている。二人は夫婦であり、ケンブリッジ大学教授の夫ヘンリーは、ミルの学派に連なる著名な自由主義経済学者であった。政治家としても有能で、グラッドストーン内閣では自由党代議士として通信大臣を務め郵便小包制度を創始するなどの業績を残した。夫人ミリセントもミルの影響を強く受けた自由主義思想家で、婦人参政権運動のリーダーとして活躍した。

今回は、西洋学術移植の重要な文献のひとつであった夫人の著作について紹介してみることにしたい。明治初期に経済学のテキストとして最も読まれたのは、夫人の著作『初心者のための経済学』（翻訳書）であったといわれているが、目録にはその原書“Political Economy for Beginners, with Questions”(1870)が収録されている。この著述はミルの『経済学原理』のダイジェスト版といってもよいような内容だというのが（杉原四郎『J. S. ミルと現代』）、ミルの著作ばかりではなく、この種の経済学入門書（例えばウェーランドなど）も日本に自由主義経済思想を扶植する上で重要な役割を果たした。原書は1870（明治3年）にイギリスで刊行されたが、欧米経済の導入に躍起になっていた明治初期に、本書は近代経済学に接して日も浅い学者・知識人向けの恰好の経済学知識の源泉としていち早く輸入されたようで、丸善目録に掲載された明治9年ごろには、すでに盛んに流通していた経済学原書のひとつだった。

こういう評判の本であっただけに翻訳書の刊行も早く、明治6年に林正明による訳述『経済入門』が現れ、続いて明治10年には永田健助訳述で『宝氏経済学』と田沢鎮太郎訳『経済学階梯』の2種類が刊行された。また、明治17年には専修学校（専修大学の前身）の教科書として中隈敬三の講述『経済原論』が出された。丸善でも時流に乗って、明治18年に兼崎茂樹による問題集だけの訳『経済論問題集』を、また上記永田の訳本が好評で広く読まれていたのを受けて、明治20年に『改訳増補宝氏経

済学』、明治21年にさらにその第3版と、立て続けに出版を手がけた。ついでに触れると、明治初期の丸善出版物には啓蒙的な教科書が多く、西洋学術の摂取に熱中していた時代の要求に応え、洋書の輸入ばかりではなく出版を通してその先進的な知識の紹介に尽くした。

翻訳書について続けると、明治21年にはホーセット（夫人）著・天野為之述・山沢俊夫編『経済原論』（東京専門学校政治科第1年級講義録）というのが出版された。天野は東京大学でフェノロサより経済学を学び、ミルの経済思想の普及に努力した学者であったが、この本は東京専門学校（早稲田大学の前身）の教師になってからの講義録をまとめたものであった。また、かなり時代の下った明治38年には、鈴木重孝訳で『フォーセット氏小経済論』が刊行されている。

翻訳ばかりではなく翻刻も手がけられたようで、「国立国会図書館」蔵書目録の明治期を見ると、1887年には原著の第5版、同じ年に原著第6版、さらに1888年にも出版されている。

フォーセット夫人の経済学入門書は、本国でも好評裏に改訂を重ねたようであるが、それに追いつきながら原書の輸入が継続され、また日本での出版も行われて明治期を通しロングセラーとして広い読者層を獲得し、あるいはテキストとして使用された。

ちなみに夫ヘンリーの著書も、例えば“A Manual of Political Economy”(1863)などは本国イギリスで大いに普及した経済学書であった。この本は翻刻版が明治22年に刊行されたが、なぜか日本語訳は行われなかった（汪生鳳の漢訳『富国策』が明治14年刊行）。彼の著書では、明治13年に駒井重格によって訳された『自由保護貿易論』が最初で、そのあと明治16年には『政治談上』（下巻は夫人の論集）、大野直輔訳で明治20年『貧困救治論』などが翻訳出版された。

明治期にフォーセット夫妻の出版物がこれほど多くの人に読まれたことを考えると、彼らが日本近代化の先導者の役割を担ったといえるだろう。〔参照文献：堀経夫『明治経済思想史』／『明治文化史』5：学術／杉原四郎『J. S. ミルと現代』〕

character とキャラクタ

島岡 丘

最近ではキャラクタということばをよく耳にする。「キャラクタ商品」、「キャラクタ・グーツ」、「あの人はキャラクタがある」、など。このことばの綴り字と発音との関係も入門期の英語学習者にとってやや珍しいかもしれない。つまり、英語の綴り字は character で ch を [k] のように読み、はじめての a は「エア」のように、あとの a は同じ文字でも、弱い「ア」のように読まれ、c はこのように t の前におかれると、picture と同じように k と発音される。このことばは英語の授業では「学習者泣かせ」の一つであろう。学習者は、chair、change、chalk など ch は「チュ」のように発音するに、ch が「ク」のように発音されることに驚く。もちろん、入門期でなければ、chemistry、chemical、cholera などのように、他にも [k] と発音する語もなくはない。また、Chopin は「 Chopin 」でなく「ショパン」である。学習者を困らせるのはこのような発音と文字とずれというだけでなくさらに複数の意味があるということにある。

英語の意味を知りたいときは辞書を引いて調べる場合が多いが、できれば大きな辞書を使いたい。特に OED (*The Oxford English Dictionary*) は全20巻あり、各見出し語の語源、分類された細かな意味、さらに意味の下位分類、意味の歴史的变化、それに例文が使用年度と使用された文献がわかる。

character を用いた例文で、OED には、1735年に簡潔・流麗な詩句で有名な Alexander Pope (1688-1744) が “Most women have no character” と書いたとある。日本語では「女性は大部分特徴がない」ということになって性差別の表現として批難されるだろうが、これは今から二百数十年前のイギリスでの話しであり、現在の女性のことを言っているわけではない。

character が学習者泣かせなのは次の点である。Chinese character と言えば、「漢字」のことであり、演劇で character と言えば、「登場人物」のことであり、また personal character と言えば、「個性、個人の性格」のことであり。日本語では、これら3つの意味を一つ一つ別々に覚えなければならず、英語の勉強そのものではなく、記憶力に依存した暗記ものようになってしまう。そこで、まず、「漢字」、「登場人物」、「個性」に何か共通点のようなものがないかどうかを調べてみる必要があ

る。つまり、これら3つの日本語の言葉をカバーするいわゆる上位語 (superordinate word) は何かということになる。よほど感のいい学習者は別だが、ふつうは共通する意味は見つからないと思う。しかし、英語では実際に character の1語で、日本語のこれら3つの言葉の意味を表しているので共通項があるはずだ。

character { 「漢字」
「登場人物」
「個性」

権威ある英英辞典を引くと、原義と派生的意味が手に取るようによく分かることが多い。ついでながら、OED を座右に置いてあれば都合がよいが (CD-ROM で OED が使えるようになっていれば場所を取らなくて済む)、スペースが十分取れない場合は、NODE (1998: *The New Oxford Dictionary of English*) を引くとかなり原義がよく分かると思う。

NODE は「ノウド」と言わず、「ノウディ」のように言うのは CIDE (1995: *Cambridge International Dictionary of English*) を「サイド」と言わず、「サイディ」と言うのと対応する。

余談になるが、CIDE を「サイド」と言うと、イメージ的に芳しくないことに気が付く。suicide (自殺)、genocide (大量虐殺)、homicide (殺人 [者])、insecticide (殺虫剤) などと音声上では同じ発音なので、マイナスのイメージが生じかねない。

NODE を「ノウド」のようにしなかったのは、英語の特徴として、「ギリシア語語源の言葉は文字の e を発音する」という伝統に従い、apostrophe (アポストロフィ)、catastrophe (キャタストロフィ、大災害) などと同様な扱い方をしたのである。

NODE の定義はまず、原義を次のように設定している。“the mental and moral qualities distinctive to individual” つまり、「個人に特有の心理的また倫理的な特質」のようになるわけであるが、これを見ると、distinctive がキーワードのように考えられる。これを単に「特徴的」と言ってしまうと意味があいまいになるが、distinctive はその動詞 distinguish (「区別する」の意味) から派生した形容詞で、「自他をはっきり区別する特質が具備されている」と考えると、上に述べた3つの日本語の共通性が浮かび上がってくる。

つまり、「登場人物」はどの一人をとっても舞台の上では他の登場人物とはいろいろな面で質的に異なっているので character がつかえることが明らかになり、「漢字」は文字がそれぞれ当然ながら他の文字と異なっているということで、character になり、「個性」は個人と他人と異なるそれぞれ特有な性質を備えているから character が使えるということが明らかになる。

訳語を速やかに参照するには、英和辞典が便利であるが、英語を駆使するということは、結局、大脳の言語中枢からの神経によって指令を受けて、言語表現の具体的な形が生じることから、やはり、英英辞典で本質的で共通する原義と派生的な意味を区別するものとの判断が求められる。NODE では、「登場人物」は 'a person in a novel, play, or film' (小説、劇、あるいは映画に出てくる人物)、「漢字」は 'a printed or written letter or symbol' (印刷した、あるいは手書きの文字または記号)、「個性」は 'a person's good reputation' (人物のよい評判) のように区別して説明しているが、もとの 'distinctive mark' (特有の印) から 'distinguishing qualities' (自他を区別する特質) の意味に発展したことを語源の説明の箇所で行っている。

このように、character 1 語でも、調べてみると尽きぬ興味が湧いてくる。これがもし、character は「特徴」という意味であることを英和辞典などで知り、それだけで満足してしまうならば、特定のテキストの内容理解には役立つでも、言葉 1 つ 1 つが持つ性格の深い理解にはつながらないであろう。

以上は英語と日本語の異なる意味に言及し、英語は英英辞典を引くのがよいことを character という一語について述べたが、日英語で共通概念を表わす語もないわけではない。特に上位語についてはかなり共通する概念表わしている。そのいくつかをかがげると次のようになる。

- 'meal' と「食事」
- 'vehicle' と「乗り物」
- 'furniture' と「家具」
- 'device' と「装置」
- 'object' と「物体」
- 'container' と「入れ物」
- 'structure' と「構造」
- 'form' と「形」
- 'liquid' と「液体」

これらの「上位語」を知っていれば、camera を「カメラ」と言うのではなく camera is a kind of device for taking pictures (カメラは写真を取る一種の装置である) と言えば英語を英語で理解することになり想像の世界がぐっと広がると思われる。

同様に dinner は「デナー」よりも、the main meal of the day (1日の主な食事) のほうがわかりやすい。airplane を「飛行機」とせず、a vehicle that can fly (飛べる乗り物)、table は「テーブル」では余り意味がないので、a kind of furniture used mainly for having meals (主として食事をするのに用いられる一種の家具)、arch は「アーチ」とするよりも a curved structure (湾曲した構造物)、cup は「茶碗」よりは a bowl-shaped container (円味のある容器)、water は「水」よりも colorless liquid without taste (無色の味のない液体) などのように表現すれば大脳は活性化するのはないだろうか。

インターネットでブラウジング (browsing) という遊びがある。情報が山のようにあるので、気の向くままに Yahoo でサーチ (search) し、画面を見て楽しむのである。辞書でも同じことができる。NODE をバラバラとめくっていると、「たまごっち」が見出し語になっていた。その説明は次のようになっていた。

► **noun trademark** an electronic toy displaying a digital image of a creature, which has to be looked after and responded to by the 'owner' as if it were a pet. -ORIGIN Japanese
限られたスペースで定義するのはむずかしいが、NODE の定義は表現法を学ぶのに大変参考になる。より多くの日本人が英語を自由に楽しめるようになるとよいと思っている。

(茨城キリスト教大学教授)

定 時 総 会

新生日本洋書協会最初の定時総会を以下のとうり開催し、新規約に基づく役員改選を、昨年に引き続いて実施します。多数の会員の皆様のご出席をお願い致します。

記

日 時：1999年5月14日(金)

会 場：パレスホテル(東京都千代田区)

理 事 会

Bibliographisches Institute & Meyers Lexikonverlag & B.I.Taschenbuchverlag

定評ある出版社のドイツ語辞・事典

マイヤー・グロスタッシェン・レキシコン 第6版 全24巻

Meyers Großes Taschenlexikon in 24 Bänden, 6 Auflage

12.5 x 19 cm 140,000 項目 4,000 以上の写真・イラスト 7,680 ページ
ISBN 3-411-11006-6 セット価格 ¥29,500

《 Der Duden in 12 Bänden 》

ドイツ本国においても最も権威あるドゥーデン語学辞典・全12巻

- Band 1 Die deutsche Rechtschreibung (正書法辞典) ISBN 3-411-04011-4
 - Band 2 Das Stilwörterbuch (語法辞典) 3-411-20902-X
 - Band 3 Das Bildwörterbuch (図解辞典) 3-411-04034-3
 - Band 4 Die Grammatik (文法辞典) 3-411-04045-9
 - Band 5 Das Fremdwörterbuch (外来語辞典) 3-411-04056-4
 - Band 6 Das Aussprachewörterbuch (発音辞典) 3-411-20916-X
 - Band 7 Das Herkunftswörterbuch (語源辞典) 3-411-20907-0
 - Band 8 Die sinn- und sachverwandten Wörter (同義語辞典) 3-411-20908-9
 - Band 9 Richtiges und gutes Deutsch (正しくて良いドイツ語) 3-411-04094-7
 - Band 10 Das Bedeutungswörterbuch (語義辞典) 3-411-20911-9
 - Band 11 Redewendungen und sprichwörtliche Redensarten (慣用語句と諺) 3-411-04111-0
 - Band 12 Zitate und Aussprüche (引用語句と格言) 3-411-04121-8
- 各巻 ¥4,340 (為替の変動により価格が変わる場合があります)

好評発売中！ 《 ドゥーデン・ドイツ語大辞典 全8巻 》

Duden-Das Große Wörterbuch der deutschen sprache in 8 Bänden

見出語約500,000以上 5,000 ページ ISBN 3-411-04732-1 セット価格 ¥72,320

Bibliographisches Institute / Meyers Lexikonverlag / B.I.Taschenbuchverlag

// Mannheim 日本総代理店 日本出版貿易株式会社

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-2-1 Tel 03-3292-3755 Fax 03-3292-8766

1999年4月 通巻第383号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘

☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所 = 藤本総合印刷株式会社